

本時のねらい

野菜の成長や変化に関心をもって観察したり、世話をしたりできるようにする。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・観察カードにまとめるために、自分が気づいたことを分かりやすくメモをして仲間分けすることで、自分の考えを明確にして情報を整理する力をつけることをねらいとした。
- ・友だちが書いたことを共有することで、自分の考えを深めることをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・学習者用端末(Chromebook)
- ・学習支援ソフト (Google Jamboard)
- ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (3分)	○学習課題をつかむ。 「ミニトマトのようすをかんさつしよう」	
展開 (40分)	○学習支援ソフトを活用し、前時で観察メモに書いたことを付箋に書き、「形」「色」「大きさ」「さわったかんじ」などの項目ごとに仲間分けをしていく。 ○クラスメイトが仲間分けをしたものを見て、「いいな」や「なるほど」と思ったことを自分のフレームに書き加える。 ○仲間分けしたものをもとに、観察記録にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が学習支援ソフトで事前に作成した仲間分け(分類)を行うためのフレーム(ワークシート)を配付する。 ・児童は、付箋機能を使って、観察したことを自分のフレームで仲間分けを行う。付箋には、手書き入力する。 ・なかなか書けない児童への支援として、教員用端末をプロジェクターにつなぎ、教員が作成したものや書き始めている児童のフレームを例として提示する。 ・学習支援ソフトの設定を児童が編集できないように、「閲覧のみ」に変更し、自分の学習者用端末でクラスメイトのフレームを自由に見る。その後、編集が行える設定に戻し、自分のフレームに「いいな」や「なるほど」と思ったこと書き加える。 ・自分のフレームを見ながら、「実の形は～で、」や「身の色は～や～のものがあり」というように、観察記録にまとめる。
まとめ (2分)	○活動の振り返りをする。	

1人1台端末を活用した活動の様子

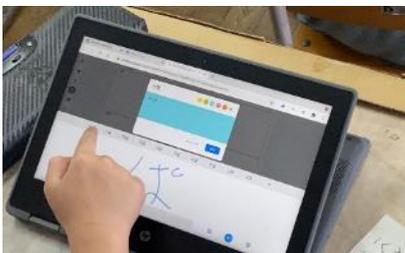


写真1：観察メモをもとにフレームに書き込む場面



写真2：教員用端末を用いて、児童に例を提示する場面



写真3：自分のフレームを見ながら、観察記録をまとめる場面

児童生徒の反応や変容

- ・学習支援ソフトを使うことで、入力や削除が簡単に行えるため、想定よりもスムーズに作業が行っていた。また、クラスメイトの考えを瞬時に見ることができたため、いつも以上にたくさんの意見を見ることができた。
- ・自分の考えが全体に提示されたり、クラスメイトに確認してもらったりすることで、自分の書いたものが見てもらえるという意識が高まり、学習意欲につながっていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・観察したことを仲間分け(分類)して整理することによって、観察記録をまとめるときに形や色、大きさなどを項目ごとに分けることを意識し、わかりやすくまとめることができた。
- ・クラスメイトの意見が自分の画面でも見られることで、配慮の必要な児童の支援につながった。